発行日　2017年 6月 15日

第14号

福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会　ニュースレター

1．「健康手帳」を贈りました

この春、児童養護施設から巣立つ16歳～18歳の児童29名に贈ることができました。「健康手帳」は2013年3月から贈呈していますが、‘卒園した人が大切に保管してくれるだろうか？’‘紛失して個人情報が漏れたりしないか？’と心配していました。そこで昨年から、健康手帳をポーチに入れて、一人暮らしで必ず使う体温計とバンドエイドと一緒に贈っています。女子には婦人体温計に記録ノートを添えて、さらに卒園後も継続して県民健康調査の甲状腺検査を受けられるよう、住所変更の説明や県外で検査ができる病院を一覧にして渡しています。体温計等は今年から日本ルーテル教団の指定寄付をいただいています。

その他、昨年（2016年）10月以降に家庭に帰った児童や入所施設が変わった児童8名にも「健康手帳」を施設の職員が渡してくれました。施設で生活していた間の健康状態や予防接種、のんでいた薬、通院歴、そして個人線量計・甲状腺検査・尿中セシウム検査などの被曝モニタリングの検査結果を家族にまとめて知らせる事ができました。

健康手帳と「甲状腺検査を受けましょう」とテプラを貼った体温計、バンドエイド、婦人体温記録ノートと保管する赤いポーチ

2．アフターケアを継続しています

本会では、3年前から“卒園生に健康手帳を贈るための職員による訪問の交通費補助”を継続しています。児童養護施設を巣立った後、卒園生が自立して生活していくために、「アフターケア」の重要性が強調されており、この事業は、2016年度WAM助成金（社会福祉振興助成事業）を受けました。

①卒園生が就職先へ向かう時に職員が同行する際、「健康手帳」を渡して道中で説明したり、②卒園時に「健康手帳」を渡すといっぱいいっぱいになってしまう障がいを持つ児童を1年経ち落ち着いた頃に訪問して「健康手帳」を贈りました。

また、いわき育英舎では、東日本大震災の影響で備品が壊れて園舎の建て替えをしており、健康手帳電子化システム導入後も日々の入力で精一杯だったのですが、今年はようやく過去のデータ入力ができ、「健康手帳」を印刷することができました。そして既に卒園している19歳～21歳7名に、③担当していた職員が職場や住まいを訪問したり、④食事会で集まった時に「健康手帳」を贈りました。

④の食事会は、幼児期から児童養護施設で一緒に成長した4名が社会人となって1年目の今年3月、元担当職員が退職するのをきっかけに開かれました。その席で「健康手帳」が一人一人に渡され、卒園生は記載内容に、自分達を幼児期からここまで見てくれていたと驚き、職員の暖かい養育を知る機会となり、また「会社の検診の結果もここに挟もう」と話し合っていたそうです。さらに4名が元の担当職員にお礼のプレゼントを贈るというサプライズもあったようです。施設長からは、卒園後時間を経過してから集まることによって入所当時は話せなかったことも振り返って語り合えて、お互いに経験を糧にする機会にもなるという感想も聞かれました。

①～④のように様々なかたちでの健康手帳の贈呈は、アフターケアをより有意義にしています。

3．健康手帳が活用されています

既卒の11名を含めると、2017年春までの1年間に48名の児童に健康手帳を贈呈する事ができました。

贈呈するタイミングや方法は、施設の担当の職員にお任せしていますが、卒園間際の児童の様子がわかる施設の看護職員から報告を紹介します。

『入所からの身長と体重の成長記録に感激して「すごい、すごい」、予防注射は母子手帳にも書いてあるがここで確認できると説明すると「わかった」と。健康手帳に用紙を追加して園長先生、職員からのメッセージを書いてもらうと「嬉しい」と。甲状腺検査を今後も受けるための住所変更の説明には「続けた方がいいの？面倒くさいね」というので、経過観察の必要性や甲状腺がんの発生率の説明に対して「わかった、検査を続けた方がいいんだね、住所変更するね」と。一度話しても理解できないこと、性感染症や基礎体温の必要性、甲状腺検査が可能な病院の地図を追加して個別に渡した。』

子ども自身が成長や健康の軌跡を辿ることができる「健康手帳」は、ライフストーリーワーク(生い立ちの整理）として貢献することは期待されていました。これに加えて過去5年間の積み重ねによって、福島県内では「健康手帳」が職員から施設を巣立ち、独り立ちする卒園生に贈る大切なメッセージとして活用されていることが明らかになりました。施設毎に工夫をしてくださることは、嬉しいことです。

健康手帳電子化システム「すこやか日誌」は、全国に広がっており、岩手県内の3つの児童養護施設を皮切りに、静岡県1施設、そして青森県１施設で導入され、児童支援記録と合わせて使われています。秋田県、新潟県の施設でも導入が進められています。「すこやか日誌」は災害対策を考慮した記録システムですので、神戸理事、齋藤監事、事務局澤田(共同代表）が児童養護施設 新潟天使園(2月)、鳥取子ども学園（3月）を訪問して、災害発生時の対応、マニュアル整備、そしてすこやか日誌の災害時活用、さらに福島の児童養護施設の現況を報告して、職員の皆さんと意見交換をしました。（WAM助成実施）

4. 甲状腺エコー検査を実施しました

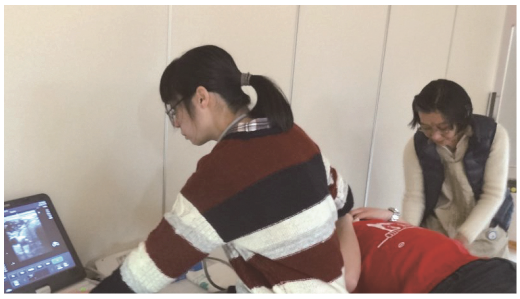
ニュースレター13号で詳細にお伝えした甲状腺エコー検査は、2017年1月以降、２施設で検査を実施しました。(ｼﾞｬﾊﾟﾝﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ 共に生きるﾌｧﾝﾄﾞ 助成)

東京電力福島第1原子力発電所事故直後の放射線量が低かった1施設には、事故後6年経過した現在、事故当時は浜通りで生活していた児童が入所しています。県民健康調査のスケジュールでは昨年度までに少なくとも2回は甲状腺検査を受けているはずが、地域毎に日程を設定して検査を行っているため、児童養護施設入所やそれ以前の転居などの事情も重なり、1度も検査を受けていない児童がいました。

また、震災当時中学3年～高校3年生で県民健康調査甲状腺検査の対象である23歳以下の職員も本会の検査を受けました。高校卒業後は自分で申し込み、指定された病院で甲状腺検査（県民健康検査）を受けるのですが、ほとんどの職員が検査を受けていませんでした。本会では甲状腺エコー検査事業開始当初から、県民健康調査の対象(2011年3月11日時点で18歳以下)以外の職員にも安心してもらえるように希望を募り検査を実施していますが、今後は若手の職員にも卒園生と同じように継続的な検査を受けることを理解してもらう働きかけを構築していきたいと考えています。

県民健康調査の甲状腺検査の受診率は、第27回検討委員会（本年6月5日開催）の報告でも18歳以上の受診率は低く、本格調査(先行検査に続く2回目の検査)では、18歳～22歳の対象数　97,092名のうち検査を受けたのは24,931名で25.7%のみでした。(全対象381,256名のうち受診者270,511名、平均受診率は71%．18歳以上を除いた18歳未満の各年齢階層別の受診率は79%～93%)

本会では18歳になり、卒園して社会人になっている人も、出身の施設で甲状腺エコー検査を受けられるように、施設まで来るための交通費を補助する事業を2014年から展開しています。しかし今回は降雪時期だったせいもあり、一人も検査を受けに来ませんでした。18歳以上になっても検査を受け続けるためのさらなる方策を講じる必要を感じています。



5. 県民健康調査 甲状腺検査 2次検査の現状

原発事故当時に福島県にいた18歳以下約38万人の対象者のうち県民健康調査(先行検査、本格検査）を受診して、2017年3月31日までに「悪性ないし悪性疑い」と診断された人は191名、このうち手術をした人は153名です。(第27回検討委員会）

１次検査の結果、精密検査である２次検査を受ける必要があると診断された人は先行検査【検査1回目】では2,293名ですが、実際に2次検査を受けたのは2,130名、本格検査【検査2回目】では、2次検査の必要がある2,226名のうち1,832名しか受けていま

せん。受診率は先行検査で92.9%、本格検査では82.3%で、異常が疑われていても精密検査を受けていない子どもは本格検査では17.1%いました。このうち指定された病院以外で精密検査を受けていて、県民健康調査で把握できない人数を考慮しても、６人に１人が異常を疑わているのにもかかわらず、精密検査を受けないでいることが考えられます。今後、甲状腺癌が進行した状態で発見されることが心配でなりません。

最近放映された(6月6日NHK「クローズアップ現代＋」)、放射性セシウムは従来考えられていた水溶性以外に、粒子の大きい不溶性放射性粒子となり原発近くに飛散していること、この放射性粒子は原子力発電所の建屋で使用されていた断熱材と結合して形成されたと報じられていました。これまで世界の原子力災害では観察されていない物質であり、過去の事例からシュミレーションされている内部被曝と異なる健康影響が予測されているので、慎重な経過観察が必要と言われていました。

施設の児童は卒園して自立後、家族の助言を受けづらく放射能による影響を含む健康管理を、自分でしていかねばなりません。本会では、アフターケアとして施設職員の協力を得ながら、健康被害の予防と早期発見のための活動を続けていく所存です。

6. 発達障がいの勉強会を開催しました

3月9日、福島愛育園の会議室で「発達障がいを持つ子供の特徴と対応方法・健康手帳への記録方法」というテーマで、塩飽副代表が勉強会を開催し、４児童養護施設の職員39名が参加しました。栄養士、事務職員も施設内で子どもと接することが多いので「学生時代は発達障がいについて詳しく学ぶ事がなかったため、具体的に基礎知識からしっかり話してもらって勉強になった」という感想が聞かれ、好評でした。他には、発達障がいのある児童とそうでない児童と一緒に生活にするときの説明の仕方、対応の違いに困っているという声が聞かれました。これに応える内容も含めて、今度も継続して勉強会を開催していく計画です。

7. 各地からご支援を頂いています

チャリティ･道草コンサートNo3は、田中ふみさんと原田雪子さんが主催してくださり、2016年12月1日、武蔵野公会堂にて開かれました。田中ふみさんの独唱・ピアノ伴奏井澤真理さん、原田雪子さんのピアノ演奏の他、今回は天津龍花さん率いる天津流の民謡が賑やかに舞台を飾ってくれました。長野の木曽節から始まり、福島の新相馬、徳島のうず潮ばやしと、「民謡を踊る」と題した振付には目を見張るものがありました。

原発事故から6年以上が経過して風化も指摘されていますが、本会への支援の輪は各地に広がり、コンサートやイベントの売り上げの寄付をはじめ、パンフレットやホームページを通して本会の活動を知った方、震災直後から支援をしてくれているドイツ居合道会を通じてのスイスから遺産の寄付もありました。支援者の皆様が広報をしてくださっていること、そして日頃のご支援に深く感謝いたします。

一方で時間が経過して、前述のような新たな課題に直面しています。子どもたちが児童養護施設を巣立った後も、6年前の原発事故で拡散した放射能による健康被害に苦しむことがない、またそれによる差別を受けることがないように、持続的な活動を維持するため、引き続きのご支援を賜りますようお願いいたします。

8. 2017年定時総会を開催しました

2月11日に第５回定時総会を名古屋YWCA会議室で開催しました。冬期は福島で開催すると雪による交通機関の遅延が心配されたので、名古屋開催にしたのですが、日中は吹雪くほどの雪模様でした。正会員、賛助会員、さらに法人会員に出席して頂きました。

同日開催された理事会では、中長期計画に則り、財務計画の討議を開始しました。

7．会費納入、寄付・未使用切手などのご寄付を頂いた皆様(敬称略　順不同)

2016年11月29日～2017年6月7日

荻郷リサイクルバザーグループ、日本基督教団 大泉教会、2010オリーブの木、日本基督教団 名古屋東教会、国際基督教大学高等学校キリスト教活動委員会、次世代の子どもたちのいのち・くらし・エネルギーを考える会、日本基督教団 下落合教会、下落合教会学校、女声合唱かまくらの風、児童養護施設 唐池学園有志、名古屋YWCA、チャリティ・道草コンサート、日本ルーテル教団 戸塚ルーテル教会教会学校、戸塚ルーテル教会附属幼稚園、日本ルーテル教団、日本基督教団 早稲田教会、株式会社 福味商事、日本基督教団 南山教会、はらからの歌声、山のハム工房ゴーバル、John Görmann　居合道会プロジェクト、へるす出版”小児看護”編集部
髙山　喜美子、澤田　稔・保子、小沢　麗子、山田　洋、石原　昌子、三谷　美香、鈴木　敏夫、市谷　汀子、池田　むつみ、田中　哲夫・好子、澤井　映美、前村　恵、髙橋　久夫、山本　敏雄、田口　恵美子、木村　泰幸、若本　美彌子、宮原　多枝子、阿久澤　麻理子、久米　晶子、小田　美乃里、畑野　研太郎、山縣　敦子、三原　翠、安藤　敏彦、原岡　潔、近藤　真由美、川北　かおり、鈴見　郁子、佐野　尚子、猪熊　京子、齋藤　泰子、大塚　千織、小松　美智子、下澤　いづみ、田上　文子、村本　淳子、加藤　典子、嶋津　徹、馬場　隆、臼井　美帆子、松村　芳陽、大町　敬子、髙木　健一郎、永見　亜矢子、髙橋　梓、白鳥　まゆみ、村川　佳代、澤田　耕治、中山　珠恵、武井　陽一、武井　めぐみ、表　京子・裕子、安間　ちょう子、増田　高子、小野　智子、井手　初穂、横井　章人、銭谷　美幸、青木　雅子、國澤　尚子、山崎　慶子、糸柳　尚子、熊坂　武雄、吉田　美樹、工藤　美子、片岡　安子、佐野　むね、石川　信克、大井　千鶴、高橋　敦子、西口　徹、村田　貴志子、佐々木　豊、齋藤　みき子、齋藤　久夫、塩飽　仁、神戸　信行、数間　恵子、安江　真佐子、市川　誠子、菅波　靖夫、遠藤　和子、ナカノ　ヨウコ、喜多野　由希、菅沼　勝子、小澤　英輔、立川　明朗、秋山　道子、細谷　たき子、太田　信吉、舛岡　泉、加島　春来、原瀬　昌久・光子、原瀬　岳・耕・里、大橋　正明、小熊　三重子、村田　恵子、大塚　哲朗、小倉　光子、志賀　由美、三澤　篤子、宮田　美恵、岡田　友子、田中　とよ美、犬塚　茂生、津山　春香、津山　夏維、島村　陽子、松平　信子、大畑　美和子牛尾　幸世、今泉　郷子、宇井　志緒利、平松　美代子、小松　美穂子、飯塚　有佳、村上　敏文、神津　陽子、鈴木　千衣、坂口　真澄、本多　勝次、木戸　晶子、山内　栄、澤田　茉季、八尋　尚子、渡辺　眞知子、石川　冶子、匿名希望M・F、カクチ　ヒロコ、Anna-Maria Okada、立川　洪介･満里、木戸　晶子

8．本会の活動に対して下記の団体から助成を頂きました

○独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業
　児童養護施設退所者への健康手帳贈呈事業　(2017年3月まで)
○日本ルーテル教団　東日本大震災支援対策
　健康手帳電子化システムおよび拡張版開発支援、データ整備事業(2017年3月まで)
○公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会
　児童養護施設の個人被曝線量計（ルミネスバッチ）
○特定非営利活動法人　ジャパン・プラットフォーム　共に生きるファンド
　児童養護施設の入所児童・卒園生の甲状腺エコー検査事業
○特定非営利活動法人　日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET) 福島基金

福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

共同代表　澤田和美（福島事務所　事務局長）
丸　光恵（甲南女子大学　看護リハビリテーション学部　教授）
副代表　塩飽　仁（東北大学大学院　小児看護学　教授）

事務所住所・連絡先　〒960-8055　福島市野田町6－4－74－5　メゾンオーブC203
e-mail: fukujidou@yahoo.co.jp　電話・FAX: 024 - 573 - 2939

♡略称　ICA福子（いかふくこ）　Foster Care for Infants, Children and Adolescents in FUKUSHIMA

本会は様々な団体の助成金や皆様からのご寄附により、活動を続けています。
これまでのご支援に感謝申し上げると共に、引き続きご支援をお願い申し上げます。未使用切手による寄附も大歓迎です。

ご支援先

♡ゆうちょ銀行
店名：二二九店（店番号229）
種類：当座預金
番号：02220 - 2 - 118684
名称：福島児童養護施設の子どもを考える会

♡大東銀行
店名：福島西支店(店番号047)
種類：普通預金
番号：1303901
名称：福児童　代表　澤田和美

♡三井住友銀行
店名：白山支店
種類：普通
番号：6854164
名称：福児童　代表　澤田和美

ホームページもご覧ください　http://www.fukujidou.org

※トップの写真は福島事務所近くの荒川遊歩道の2度目の除染、2017年春に施行